



The Road 町田人
寄り合い—The YORIAI—
 ワクワクがあふれるまちへ



The YORIAI

服部：私の場合は、40年のサラリーマン生活では地域のことはまったくタッチしてこなかったから…（笑）退職後に地域の方から「暇だろうからこれからは地域に」と誘われたのが、地域デビューのきっかけです。皆さんのお話にありましたが、企業も新しい形を見出そうと考え方が変わってきているし、働き方も変わってきていますね。

鰐淵さんや服部さんは、「ワクワクするまち」について話し合った「地区ミーティング」にご参加いただきました。地域の多様な方々が集まり、地域課題解決に向けた対話の場に参加してみたいかご感想は？

鰐淵：（参加した相原地区に）いろいろな人がいることがわかり、純粋に楽しかったですね。自分たちの活動の幅が広がりそうな予感がしています。

服部：玉川学園・南大谷地区では、地域で活動している団体は多いのですが、それぞれで活動していて横のつながりが薄かったんですね。それが地区協議会を通じてつながるようになり、さらに地区ミーティングで盛り上げるようなプロジェクトが生まれました。玉川学園の特徴でもある坂を活かしたまちの魅力発信と、ぬぼこ山本宮での地域の居場所づくりです。もう早速来週ミーティングがあり、大変に盛り上がっていますよ。

鰐淵：車の話に戻りますが、実は昔の車って子どもに人気があります。昭和、平成初期の頃のものには新鮮に映るのでしょうか。動画や写真を見ながら段ボールで作っています。昔の車の

The YORIAI

外装で中身は電気自動車みたいなものって作れるんですか。

鹿島：昔の車を走れるようにレストア（復元）したことはありますが、ボディ剛性が今と違うので中身を入れ替えてもうまわ走れないと思います（笑）。でも昔の車の良さもありますし、何よりそれに興味を持ってもらえる子どもたちがいて、成長にもつながるというのは素敵ですし、何かできそうですね。

今日のこの座談会から早速新しいアイデアが生まれそうでワクワクします。そうした活動を続けていくコツや、これから活動を始める方へのアドバイスがありましたら最後をお願いします。

杉山：私は思いを声に出して発信するようにしています。言ってみると、そのアイデア面白いねって賛同してくれる仲間が増えますし。地域の方に地域活動に参加してもらうには、自分が地域に入ってワイワイ楽しくやっているのが一番なのかなと思います。

服部：コロナ禍の3年間は地域活動がほとんど何もできなくて、とてもつらい思いをしました。ようやくというところで、

町内会の役員が回ってくるとやめてしまうという方もいるのですが、できるときにできることをやりましょうと伝えたいです。私自身もそうでしたが、何かしら活動をやってみると仲間ができて楽しいですし、この楽しさはやってみなければわからない。だから、少しでもいいので地域に顔を出してもらいたいと思います。役員さんたちに1年経って感想を聞くと、やはりやってよかったって口をそろえておっしゃいますから。



未曾有のパンデミックから3年。ようやくその出口が見えてきた。いよいよ行動の時。近所の地域活動にちょっと顔を出してみるのはいかがだろうか。



「まちだ30」のセッションの様子。